



マンガでわかる 建設業

もっと見たい！もっと知りたい！

この小冊子は、建設現場で実際にあった話をマンガとコラムと写真で紹介したものです。

今日も全国の現場で、大勢の職人さんが力を合わせて巨大な構造物をつくっています。

その過程には、大変なこともあれば、胸が躍るような出来事もあります。

ここでは、そんな建設現場の醍醐味をご紹介します。

人はなぜ働くのか

ある小学校の先生が「人はなぜ働くのか」というテーマで作文の宿題を出しました。小学5年生の彼にとって、仕事のイメージは漠然としたものしかありませんでした。

そんな彼は、毎晩、残業で帰りの遅い父親に聞いてみました。「僕は父さんに『父さん、仕事って大変なものなの？』と聞いてみました。」彼の作文は続きます。「すると、父さんは、いつも笑顔で『仕事は大変だよ。でも楽しいよ』と言ってくれました。それを聞いて僕は勇気が湧いてきました」と。

これは、小学5年生の彼のボキャブラリーの中で、父親に贈る最高の称賛の言葉だったのだと思います。あるいは、心のどこかでそう言って

欲しかったのかもしれません。

そして、その作文の結びには、「僕は仕事を通じてたくさんの人と出会うことが楽しいと思います。人は楽しいから働くんです。僕も将来、仕事をしてたくさんの人と出たいです」と書かれていました。

「働く」という言葉の語源は「はたをらくにする＝周りの人を楽にする」という意味からきたともいわれます。単にお金のために働くというのと、周りの人の役に立つために働くというのでは、志が大きく異なります。

仕事とは、多くの人と出会い、自分自身を磨き、自分の周りの人の役に立つということです。人は、仕事を通じて成長し、すばらしい人生を送るために働くのです。



超大型工事 MONSTER PROJECT



ボクの黒部の太陽

僕は学生時代、石原裕次郎主演の「黒部の太陽」という映画のリバイバルを見ました。数々のトラブルを乗り越え黒部ダムをつくるためのトンネルを掘るというものです。僕はその壮絶な映像と出来上がった黒部ダムの壮大な姿に感動して建設の道に進みました。

最初に配属された現場は、鉄道の高架化工事。新入社員の僕は、何もわからないままただ忙しく走り回り、学生時代にあこがれていた建設業とはずいぶん違うように思えました。

その日も朝から大量のコンクリートを打設し、夕方ようやく作業が終わりました。クタクタに疲れ果てて、座り込んだ僕は、ふと自分がついている高架橋の方に目を向けました。そこには、打ちたてのコンクリートが夕日を反射しながらキラキラと輝いていたのです。その光景を見たとき、僕の口から思わず言葉こぼれました。「あ〜、これが僕の黒部なんだ。こんな大きなものを僕もこの手で造ったんだ」と。

僕たちがつくるものは、とてつもなく大きなものです。大勢の人が力を合わせなければ完成できません。僕も、その大勢の人の中の一人です。でも、誰に何といわれようが、胸を張って言えます。「僕がこの高架橋をつくったんだ」と。

ボクの黒部の太陽 くろべ たいよう

以上で黒部の太陽
リバイバル上映を
終了いたします

す…凄かった

映画みたいに
感動する仕事がしたくて
建設業界の道へ

現場舐めてたわ
ぜいぜい

ボクの
くろべのたいよう
「感動する仕事」は
いつになるやら…

#本日のお仕事
#コンクリート打設(だせつ)

疲れたな！
キラ
キラ
ちよつ…
くろべ!?

本気の挨拶で熱意は伝わる

その現場は、朝礼時に 500人の職人さんが集まる超大型現場でした。朝礼では、各職長さんが当日の人員と作業内容を発表していくのですが、一通りマイクが回るだけでも相当時間がかかります。大人数だと朝礼が長引き、どうしても集中力が途切れて下を向く職人さんが出てきます。

そんなとき、職人さんたちが一斉に顔を上げた瞬間がありました。それは、一人の新入社員がひときわ大きな声で「おはようございます!」といった瞬間でした。

たかが挨拶です。でも、「本気の挨拶」が 500人の職人さんの心に届いた瞬間でした。そのことを最も実感したのは、彼自身だったと思います。彼は、きっと今後もこれ以上はないというような大きな声で挨拶をするでしょう。それがやがて彼のトレードマークになり、周囲の人をひきつける人徳となり、いつの間にかチームを引っ張るリーダーシップに成長していくのではないのでしょうか。

規模の大小に関わらず建設現場では、技術も安全もモラルも一流のプロフェッショナルたちが、完成という共通の目的を目指して互いに切磋琢磨し合う「チーム」になる必要があります。

そんなチームをつくる第一歩が「本気の挨拶」なのです。

THE MORNING PASSION

朝のエネルギー

500人の心を
つかんだ瞬間

現場は大型商業施設で朝礼には500人の職人さんが集まります

各社が当日の作業内容を発表するだけで20〜30分集中力が続かず下を向く人が目立ちます

そんな時全員が顔を上げた瞬間が

一人の新入社員が元気な挨拶一つで500人の心を驚かしました



THE



建設現場の空気

WORKSITE



朝礼と軍手



忘れられないある朝の出来事

これは僕が入社間もない新入社員の話です。4月のまだ肌寒い朝、その現場では、朝の7時に朝礼が行われていました。手が冷たいのでポケットに入れていた軍手をとろうとした瞬間に所長の怒号が響きました。

「おいっ、お前。朝礼の時にポケットに手を突っ込んでるとは何事だ！10年早いわああ！」と。

新入社員は、突然の出来事にあまりにも所長がおかなくて、言い訳も弁解もできないまま、小さくなってしまいました。

でも、今ならわかります。あの時、現代ならあり得ないような理不尽ともいえるべき怒鳴り方をした所長でしたが、僕を叱りたかったのではなかったと思います。その一言で、だらけていた現場の空気を一気に引き締めたのです。

10年早いといわれたあの日から数十年たちました。いまだに僕は、朝礼ではポケットに手を入れたことがありません。

朝礼で気持ちを引き締めることは大事です。

SPIRIT



キミは掃除だけしておけ

彼は、カッコいい建物をつくることを夢見て建設会社に入社しました。でも、配属された最初の現場で所長から言われたことは「キミは掃除をしておけ」でした。その現場は250戸もある超大型マンション。そこで各戸を掃除して回ってもキリがないように思えました。

彼は「俺は、掃除するためにこの会社に入ったんじゃないやねえし。こんな会社辞めてやる!」と思いつつ掃除をしていました。

でも、あるとき気づきました。「自分が掃除した部屋は後からくる職人さんもキレイな仕事をしてくれる。自分が掃除していない部屋は、雑然としていて、なんだか職人さんの仕事も雑に感じる」と。

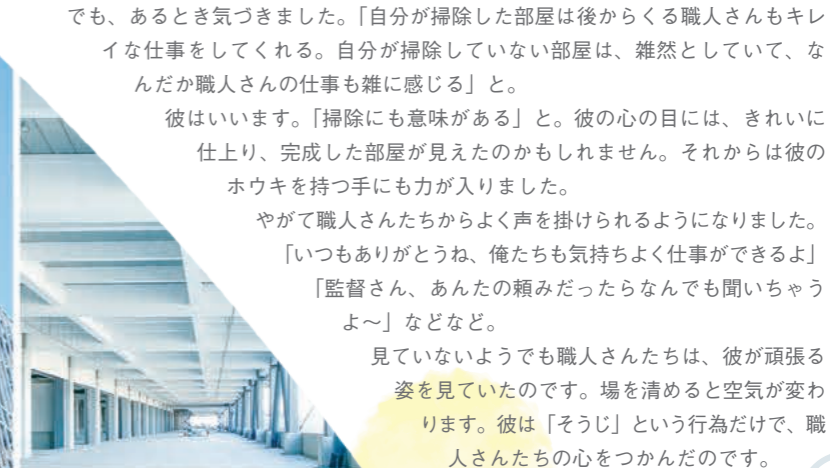
彼はいます。「掃除にも意味がある」と。彼の心の目には、きれいに仕上がり、完成した部屋が見えたのかもしれない。それからは彼のホウキを持つ手にも力が入りました。

やがて職人さんたちからよく声を掛けられるようになりました。

「いつもありがとうね、俺たちも気持ちよく仕事ができるよ」

「監督さん、あんたの頼みだったらなんでも聞いちゃうよ〜」などなど。

見ていないようでも職人さんたちは、彼が頑張る姿を見ていたのです。場を清めると空気が変わります。彼は「そうじ」という行為だけで、職人さんたちの心をつかんだのです。



掃除にも意味がある

Cleaning the mind!

掃除の意味



Clean up 掃除



The power of women

女性の活躍

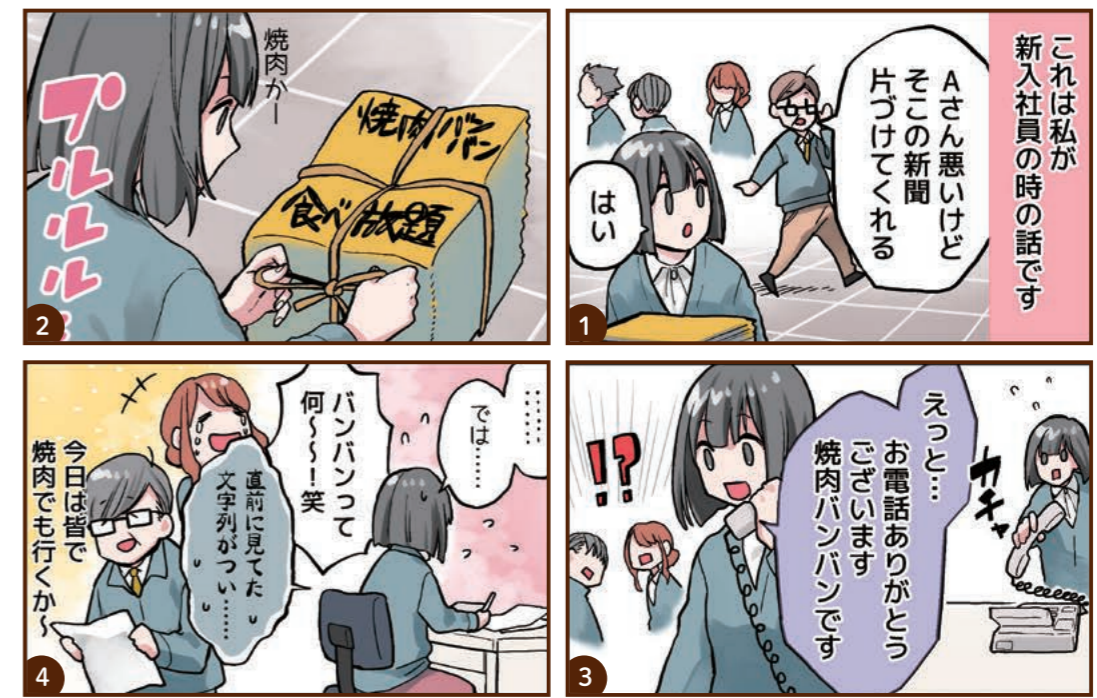


焼肉バンバン

これは建設会社に勤めていた女性の話です。彼女がまだ新入社員だった頃の出来事です。誰もが経験することですが、会社に入って最初に緊張するのは「電話にでる」ことじゃないでしょうか。そんなある日、たまたま新聞の折り込み広告を片付けていたときに電話がかかってきました。慌てて出た彼女は、今まで手にして何気なく目にしていた広告につられて…「お電話ありがとうございます。『焼肉バンバン』です」と元気よく返事をしてしまったそうです。電話の相手も驚きましたが、本人が一番ビックリしました。先輩から「バンバンってなによ〜」で笑われ、耳まで真っ赤になりました。

その後、彼女はこの失敗を乗り越え、電話恐怖症を克服しようと、集中して電話を取るようになりました。やがて、彼女の丁寧な電話対応が、現場の所長たちの中で評判になってきました。本社に来るたびに、「君が〇〇さんか。電話ではいつもありがとうね」と、わざわざお土産まで買ってきてくれるようになりました。そんな彼女は、社内の人気者になり、やがて同じ会社の先輩社員と結婚しました。結婚後、週末には夫婦二人で仲良く外食に行きます。彼女の好物は「焼肉」だそうです。

焼肉バンバン



夜間工事のヒーローたち



夜間工事とおにぎり

鉄道関連工事や幹線道路を規制した工事は、夜間にやらなければならないことが多いです。こうした夜間工事は、始発電車の時刻や道路開放時刻が定められているため、タイトな時間で完了しなければなりません。

また、市街地でやる夜間工事は、どれだけ静かにやろうとしても、時には苦情やお叱りを受けることもあり、工事担当者は気が休まりません。

その日も、明け方近くになって、何とか無事に道路の舗装復旧まで終わりました。ホッと現場の片づけをしていると、近所にある小さな食堂の照明がつかまりました。中からお婆さんが出てきて、

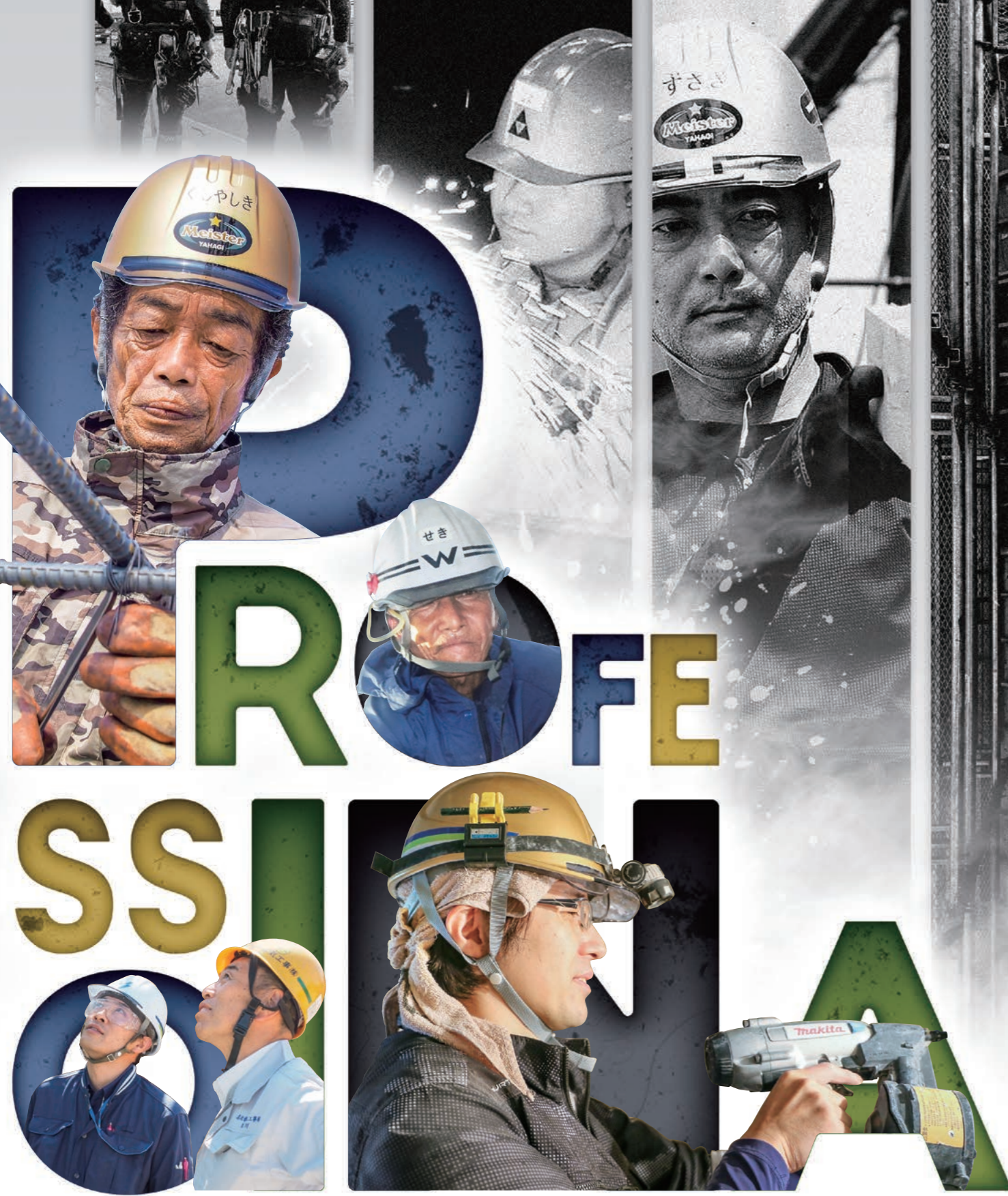
「ちょっと、お兄さん！」と声をかけられました。え〜、また苦情？いやだなあ…と思いつつも、お婆さんのところに駆け寄りました。するとお婆さんは、「毎晩ご苦労さんだね。夜は寒かったでしょう。こんなもんしかないけれど、良かったら食べて」と温かい味噌汁とおにぎりを出されました。

「あ、ありがとうございます」といって、ヘルメットをとるのも忘れて、おにぎりのみそ汁をいただきました。冷えた体にしみわたる温かい味噌汁と、お婆さんのやさしい眼差しの中、僕は不覚にも涙がこぼれてしまいました。僕は、あの時食べたおにぎりのみそ汁の味は一生忘れません。

夜間工事とおにぎり



NEVER GIVE UP!!



魂

プロフェッショナル

工程を守る姿



工程を守るといふこと

僕がはじめて週間工程を書いたのは、造成現場でした。当時は、雨が降れば休みというのが土木作業員の常識でした。

梅雨の時期には降雨が続き、三日前に書いた工程表が守れなくなります。上司にどやされ、翌週は1日余裕を見て工程表を書きました。すると今度は天候に恵まれ工事は順調に進み、材料の手配が遅れて職人さんに叱られました。たった一週間の工程管理もできない自分が情けなかったのですが、

天気まではコントロールできないと開き直っていました。

そんなとき、次工程の関係でどうしてもその日のうちに、埋め戻しをしなければならない場面になりました。しかたなしに、後輩と二人でスコップを持って、埋め戻しをつづけました。

暗くなっても事務所に帰ってこない部下を心配して見に来た所長に、段取りが悪いとどやされると思いながら事情を説明しました。すると所

長は「よし、交代だ」と言いながら自らスコップで土をハネはじめました。そのときの所長の姿は、今も忘れられません。工程を守るといふことの大変さ。工程を守るといふことの意味をその姿で教えてもらったのです。振り返れば、僕は突貫工事のように工期が厳しい工事の方が得意になっていました。これもあのときの所長のおかげです。

Never give up!!



DEEP EMOTION

感動 歓喜

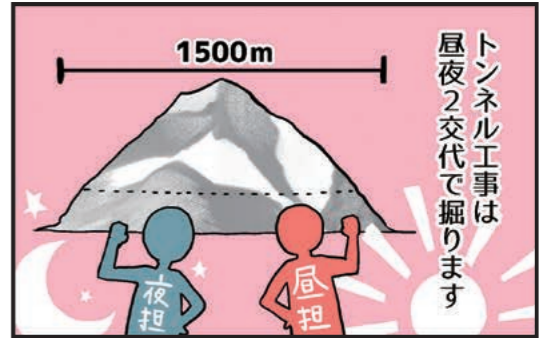
劇的なフィナーレ

トンネル工事は、通常の土木工事とは異なります。施工機械が発達した現代でも、閉ざされた空間では岩盤の崩落や機械による接触事故など、危険な要素が多いです。それに加えて、日の当たらぬ坑内では、昼も夜も関係なく2交代で休むことなく施工していきます。

岩盤の変化や湧水の発生など気を抜けない施工の連続ですが、トンネル工事の場合、その進捗状況が明確に現れるのがうれしいです。毎日、毎夜、確実に数mずつ掘り進んでいくのです。そして、その成果は「貫通」という劇的な達成感を与えてくれます。ジャイアントブレーカーで

最後の岩盤を突き破った瞬間、真っ暗な空間にまぶし過ぎる一筋の光が、暗闇に突き刺さるように差し込みます。その光の筋は、坑内に舞うホコリをキラキラと輝かせ、まるで別世界のような景色を見せてくれるのです。やがてその光の筋が大きくなり、前方の景色が徐々に拓かれる。これこそトンネル工事ならではの劇的なフィナーレなのです。

トンネル貫通



夢を描け

DRAW THE DREAM

お前の夢は何だ

ある建設会社の社長が、若い職人さんを食事に連れて行って聞きました。「お前の夢は何だ?」と。するとその若い職人さんは、ぶっきらぼうに「夢? 夢なんてないッス」と答えました。社長はいいいます。「お前、夢や目標がなくて、1日働いて10,000円もらっているだけなら、5年後も10年後もなにも変わっていないぞ」

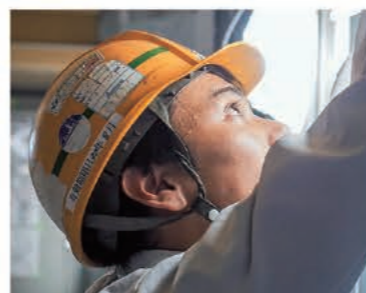
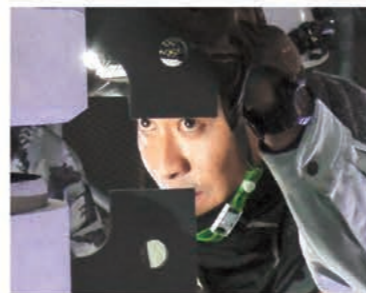
するとその若い職人さんは、ボソッと言いました。「俺、おやっさんみたいになりたいッス。社長になって若い衆を使って大きな現場をやりたいッス…」

「だったら、何をすればいいか自分で考えてやってみろ」と社長は伝えました。

翌日から彼の動きが変わりました。現場で大きな声が出るようになりました。今まで1本ずつ運んでいた足場材を2本3本いっぺんに運ぶようになりました。

しばらくして、社長はまたその若い職人さんを食事に連れて行きいきました。「お前の最近のがんばりは、皆から聞いているぞ。今度の現場では、職長としてやってもらおうと思っている」と。すると彼は、満面の笑顔で「ありがとうございます。俺ね、あんなことしてこんなことして、そんなでもって…」と熱く夢を語り出しました。翌日からの彼の働き方にさらに拍車がかかったことは言うまでもありません。

夢は人に生気を与えます。彼はこの調子できっと近いうちに夢を叶えてでしょう。



あるとび職人の話



作友会 (さくゆうかい)

職人を目指すための総合求人サイト

広大な建設現場の醍醐味や魅力を誌面で伝えるには限界があります。また、同じく施工会社各社が取り組んでいるさまざまな福利厚生やキャリアプランについても、想像よりもずっと手厚く明確に描かれています。このサイトでは、誌面では伝えきれない現場の動画やインタビューなど現場の生の声をたくさん掲載しています。また、就職に役立つ情報や新人向けのコラムなども掲載しています。

もっと詳しい内容、最新の情報は
こちらから

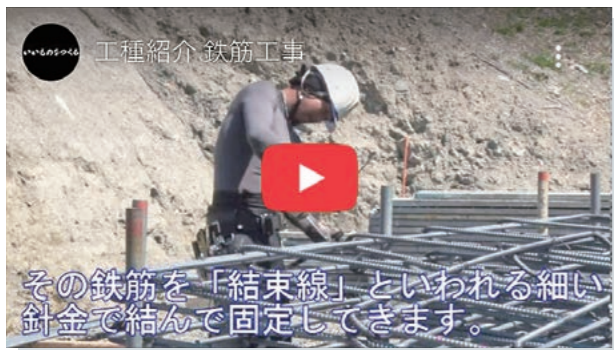


ぜひ
ご覧ください!



POINT 01

主要工種を
動画で紹介!



POINT 02

現場で活躍している
女性の職人さんに
直撃インタビュー!

Q. やってみたい現場や将来の夢について

Q. 将来の女性技術者へのメッセージ

Q. 現場で活躍している女性の職人さんに直撃インタビュー!

女性が建設現場で働くメリットを
分かりやすく紹介しています

女性が建設現場で働くメリット

長きにわたり男社会と偏見されてきた建設現場ですが、そこで働く女性にもメリットがあります。

- ① 男性と変わらない給与
- ② カッコいい
- ③ お客様に信頼される
- ④ 休みが比較的自由
- ⑤ 残業がない
- ⑥ 面倒な人間関係がない

企業を選ぶ時のポイント

いい会社は「社員を大切にしている会社」

いい企業を、一言でいえば「社員を大切にしている会社」です。大手企業では、毎年採用人と採用するところがあります。もちろんそれだけの新人社員が活躍する場があるからなのでしょうけれども、世間の小さな企業でもいい企業はたくさんあります。たとえは、採用人数は少ないけれど、その新人社員を会社の役に立てるような環境に育てようという人材育成に力を入れている会社です。

また、会社の規模や将来性に関係なく、ワクワクするからといって、大事なことは、その会社で5年後、10年後の自分の将来像が具体的に描けるかどうかです。社内の研修制度や福利厚生、キャリアマップなどが充実している会社は、そうした自分の将来像が具体的に描けます。でも、裏を返せば、安定している会社は、争っている能力が十分にあるということ、そこには成長も達成感もありません。それより、新しいことにチャレンジさせてくれる会社、失敗から学ばせてくれる会社の方がやりがいがあります。

- 採用費用よりも・・・「人材育成に力を入れている会社」
- 会社の将来性よりも・・・「自分の将来像が描ける会社」
- 食費、家ができるよりも・・・「自分のスキルが身につけられる会社」

POINT 03

学生に役立つ情報満載!

- いい企業の見つけ方
- 会社見学
- 面接の心得

POINT 04

就職後に役立つ
情報もたくさん!

- どんな仕事でも最高の天職にする方法
- 施工管理技士受験対策
- 研修案内

どんな仕事でも最高の天職にする5つの方法

上司が叱るのはあなたに成長してほしいからです。一人前になって、あなたが幸せな家庭を築くことを本気で願っています。仕事をしていて、近頃から苦情をもらうこともあります。そんなとき、この問題を解決する絶好のチャンスだと考えればいいのです。また、トラブルを天賦の才にすると、イライラするだけです。自分で何が出来るかという視点に立てば、できることがたくさんあることに気づきます。周りの人に、笑われようがバカにされようが自分の可能性に向かって頑張れば、いつか大きな花が咲きます。何回失敗しても立ち上がればいいのです。あきらめない限りあなたの未来は成功しかありません!

1. 仕事の意味を考える
～ヤル気が湧くように
解釈する～

2. 物事を前向きに受け止める
～受け止め方というものは
性格でなく選択だ～

POINT 05

キャリアプラン
5年後、10年後の
姿を見てみよう!

キャリアプラン

建設の専門の仕事は大きく技術者（現場監督）と技術者（職人）に分かれます。そして、それぞれの分野に就職があり、目指していくことで自分のキャリアプランを描くことができます。

技術者と技能者

技術者（現場監督）

技能者（職人）

POINT 06

あなたに合った職種を
分かりやすく
紹介します!

あなたに合った工種（土木編）

建設現場には、さまざまな専門工種があります。その中からあなたがやりたい工種、手に技術をつけたい工種を選ぶ必要があります。一旦身につけた技術は、一生モノです。生涯にわたってあなたの価値を高めてくれます。あなたがやってみたい工種、あなたに適した工種を、興味関心から選んでみましょう。

土木の仕事

- 重機の運転がしたい
- トンネルを掘りたい
- 橋を架けたい
- 大きなものをつくりたい
- 大規模な設備を扱いたい
- 強い電気がつくりたい
- 道路をつくりたい
- 海の仕事をしたい
- 地球を掘りたい
- 鉄道・道路をつくりたい
- 災害に備える仕事

重機の運転がしたいあなたにオススメ!

【重機土工】
道路や河川、橋梁、トンネルなど土木工事の現場でショベルカーや重機を操作する仕事です。それぞれ運転する重機の免許

この小冊子は、建設業を知らない学生さんに向けてつくりました。

同時に、現在建設現場で活躍している職人さんたちへのリスペクトの思いを込めたメッセージでもあります。

建設現場に集まる職人さんの多くは、素朴でシャイで口下手です。一般の人から見ると、声も大きく、ガラが悪いように感じるかもしれません。しかし、彼らは鉄道を敷き、トンネルを掘り、道路を築き、多くの建物を造り出すことで、社会に貢献しているという誇りをもって仕事に携わっています。

巨大な構造物は一人ではつくれません。大勢の仲間が心と力を合わせる必要があります。言い換えれば、相手に対する思いやりがなければ、成り立たない仕事なのです。そんな建設現場では、今日も心温まる物語が繰り広げられています。

建設業は、自分の持てる専門技術を駆使し、一人ひとりが主役になれる仕事なのです。



さくゆうかい

Supported by 矢作建設工業株式会社